

産業構造審議会 製造産業分科会 車両競技小委員会（第8回）

議事要旨

日時：平成30年2月22日（木曜日）15時00分～17時00分

場所：経済産業省本館12階西1会議室

出席者

田川委員長、絹代委員、藤井委員、牧田委員、三井委員、村山委員、笹部オブザーバー、久間オブザーバー

議題

1. 競輪事業の課題等に関する関係団体の取り組み等について

議事概要

田川委員長により、議題に沿って進行。

議事に先立ち、事務局から、会議及び配付資料を公開とすることを説明し各委員了承。

JKA、全輪協及び事務局から資料に基づく説明の後、欠席委員（岡委員、久保委員、三屋委員）から提出のあった意見書の読み上げを行った。その後各委員及びオブザーバーから意見が述べられた。主な意見と質疑応答は以下のとおり。

- 車券の売上をどうやって上げるかについて、関係団体は具体的内容が検討できているが、ファン拡大については欠けており、専門分野となっていない。ファンをどうやって増やしていくか、関係者の思いや決意が重要。
- 物事を決めて動かすことが大事。動きながらモニタリングをしつつ、状況に応じて変えていく仕組みとすべき。議論に時間を費やすよりも進めるべき。人材交流も進めていくべきだし、競輪のキャッチフレーズも重要。
- 競輪に関わっている職員は、競輪へのイメージ、これまでの経験等で凝り固まっている。固まったことが良いことも悪いこともあるが、今あるものを壊していくことも重要。
- 競輪にはプロデューサーがいない。競技をやっている時の選手が一番カッコいいはずであり、その選手をどう見せていくかということについて、競輪を客観的に俯瞰して捉えられる人材が関わるべき。
- オートレースは音の問題があるが、新しい形でのオートレース開催もできると思うので、電動バイクに関する規制緩和をすべき。自転車競技法と小型自動車競走法は重なる部分が多く一本化すべき。
- 競輪のプロデューサーは外部から取り入れるより、社員の中でノウハウを教え込むほうが早い。内部の人間を外に出して、勉強させてから戻す方が良い。

- J K A と全輪協からの今後の取り組みの説明を伺い、しっかり進んでいけば競輪界が発展する可能性があると思った。そのような取り組みに選手会としても協力したい。
- もちろん競輪選手はギャンブルに関わっていることを理解しているが、真剣に競技を実施しているから成り立つものであり、そういう選手の存在に注目してほしい。賭け事以外での競輪競技の魅力を追求するような議論をしていただきたい。
- 今まで J K A は、ファン拡大の取り組み等について、できないと言ってやらないでしまった。新しいことをしようとする意識が欠落していた。競輪を如何に熱く語れるか、我々 J K A が熱意を持たないとファンも熱くなれない。
- ファン拡大のために効果的な広報を提案できるような専門家は全輪協にはいない。J K A での専門家起用をぜひ実施してほしい。ただし、専門家を起用するといっても、業界への思いを持ち、職員と一緒に考えてくれる人でないといけない。J K A や全輪協で競輪を知っていてかつ情熱を持った人たちでプロジェクトチームを組められると良い。
- 平昌オリンピックが開催され、東京、北京とオリンピックが続き、スポーツへの社会的関心が高い時期にある。スポーツとしての競輪に着目してもらいたい。そうした中で取り組みを進めるためには工程表と K P I が必要。競輪のスポーツの部分とギャンブルの部分とをよく整理して進めるべき。スポーツ性を見た上で、規制緩和が必要なら法改正等を検討したら良い。
- 競輪事業に関わる者のうち、女性で発言権を持っている人はいないのではないかと。女性を巻き込んだプロジェクトチームを作った方が良い。
- 競輪場は地方創生のコンテンツでもある。自分たちだけでやると小さくなってしまふので、自転車スポーツに関心を持ってもらうためには、競輪を応援してくれる人の力を借りてもらって前に進めるべき。

お問い合わせ先

製造産業局 車両室

電話：03-3501-1694

FAX：03-3501-6731